

学力向上推進計画

与那原町立与那原中学校

1 目標

自ら学習に取り組み、思考・判断・表現できる生徒の育成
 ～学びの姿の見取りを生かした「与那原中授業スタンダードⅡ」による授業改善を通して～

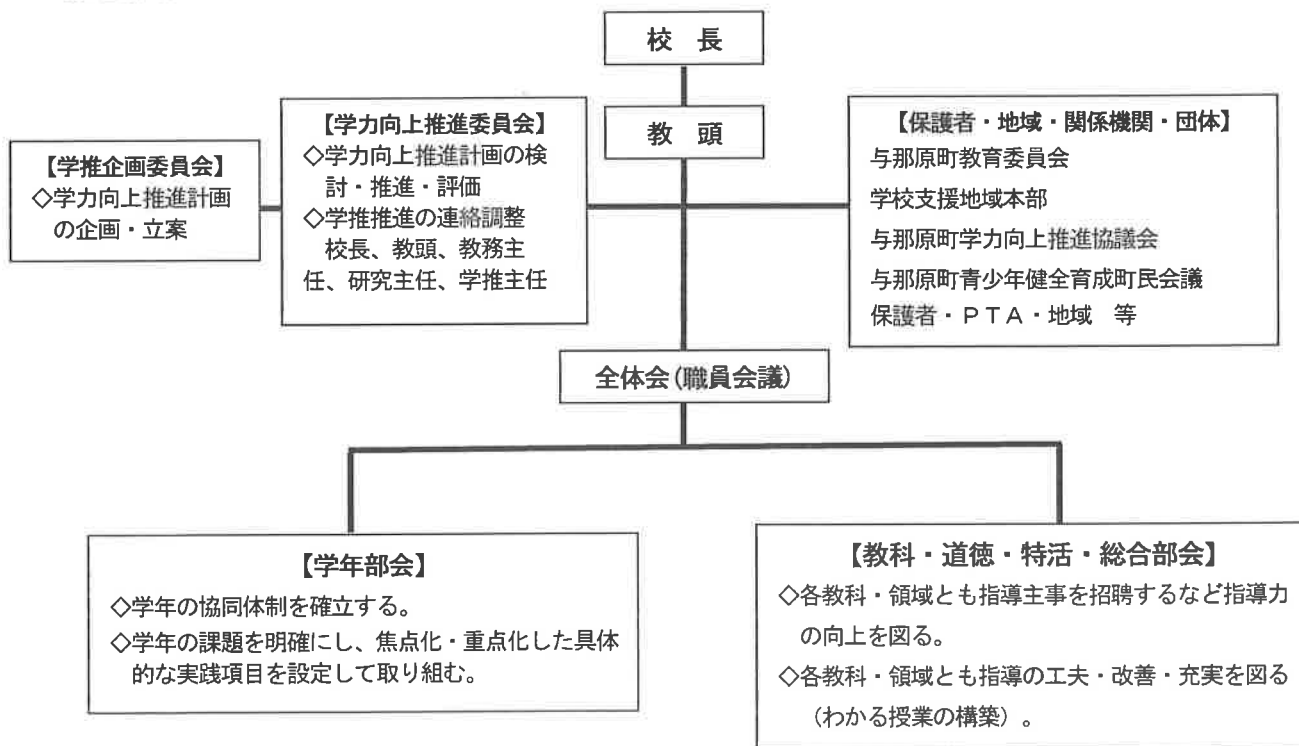
2 推進の基本方針

- (1) 「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」を踏まえた学力向上に取り組む
- (2) 「与那原中授業スタンダードⅡ」による授業改善を共通実践として取り組む
- (3) 「整YELL(ととのエール)」を合い言葉にした、学習規律の定着を図る指導に取り組む
- (4) 家庭学習の定着や内容の深化を目指し、自ら学習に取り組む生徒の育成に取り組む

3 年次計画

年次	推進の重点	内容
<第1次> 令和2年度	実施体制の確立と実施の推進	○沖縄県学力向上主要施策「PPⅡ」を参考に学力向上推進計画を策定。 ○『与那原中授業スタンダードⅡ』の共通確認と共通実践。 ○重点目標及び具体的取組の確認と実施の推進。
<第2次> 令和3年度	取組事項の重点化と日常化	○学力向上推進の実施状況と課題の把握。 ○課題解決のための取組の策定と実施。 ○重点目標の見直しと具体的取組の充実。
<第3次> 令和4年度	取組の総括	○3年間の取組の総括。 ○新たな学力向上推進計画の策定。

4 推進体制



5 具体的な取組

(1)「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」を踏まえた学力向上の取組

方策1 日常化する【質的授業改善】

- ア 課題設定や導入を工夫し、生徒が主体的に学べる(学ぶ必要を感じる)授業改善に取り組む
- イ 「めあて」を前時の振り返りと繋げたり、生徒が自ら設定したりと、「めあて」の立て方や引き出し方等の工夫を行い、自ら学んだり、自ら学習を調整したりできる授業改善に取り組む。
- ウ 「学習課題」を生徒の日常生活や社会生活と繋げたり、生徒自ら学習課題を設定したり、生徒が目的意識をもち、主体的な学習活動になるよう授業改善に取り組む。
- エ 「学習課題」「めあて」「単元のゴール」を重要視した授業改善に取り組む
- オ 単元や題材など、内容や時間のまとまりで授業改善をすすめ、生徒が「単元のゴール」をみすえながら学習に取り組める等の授業改善に取り組む。
- カ 「振り返り」の方法や時間を充実させ、生徒が学んだ事の意義や価値を実感できる授業改善
- キ 「振り返り」の視点を明らかにしたり、目指す生徒の姿を明確にしたりと、「振り返り」を重視し、生徒が自信の学びや変容を自覚できるような「振り返り」になるよう取り組む。
- ク 成果物への教師の評価や、生徒同士の交流、成果物の展示会など、積極的にフィードバックを行い、これまでの学びとこれからの学びを繋げるような「振り返り」の指導に取り組む。

- ① 生徒が学んだ事の意義や価値を実感し自己肯定感を高める個人内評価等の取り組みを日常化する。 ※取組 (ア・イ・ウ・ク)
- ② 生徒指導の3つのポイントを生かした授業を日常化する。 ※取組 (ウ・カ・キ・ク)
- ③ 資質・能力を育むために、単元を見通した授業改善を日常化する。 ※取組 (ア・イ・ウ・エ・オ)

方策2 そろえる【組織的共通実践】

- ア 「与那原中スタンダードⅡ」を用いて授業改善の共通実践を行う。
 - ・全教科、全領域に共通する授業構成を学校全体で共有し、共通実践を行う。
 - ・「振り返り」の視点や方法、生徒を見取る視点や観点を学校全体で共有し、共通実践に取り組む。
 - ・「関わり合って学ぶ場」の設定を重視し、「試行・実験・比較・検討」や「説明・発表・話し合う・書く」等、工夫し、共通実践を行う。
- イ 「与那原中授業スタンダードⅡ」を用い、「説明・発表・話し合い・書く」等の言語能力の向上の指導方法を共有し、共通実践に取り組む。
- ウ 学習の基盤となる学習規律の定着をねらい、「整YELL」を合い言葉に、1分前着席や黙想等の取り組み方を全体で共有し、共通実践に取り組む。
- エ 「整YELLアンケート」を定期的実施し、学習規律の定着状況の実態を全体で共有し、共通実践に取り組む。

- ① 見取る視点・観点を共有し共通実践する ※取組 (ア)
- ② 「学習の基盤となる資質・能力」の育成 ※取組 (イ・ウ・エ)

方策3 支える【発達の支援】

- ア 全国学力学習状況調査・沖縄県学力到達度調査・学びの確かめ・沖縄県児童生徒質問紙等の結果を全体で共有し、全職員で生徒の状況を評価・分析する。
- イ QUテストの結果を活用した生徒理解に努める。
- ウ 生徒指導委員会や学年会、教育相談委員会等、広い視野で生徒理解を行い、そこで得た生徒の状況を共有し諸活動に活かす。
- エ 生徒指導主任を中心に「学校いじめ防止基本方針」の共通理解・共通実践、毎月のアンケート等を通し、いじめのない学校風土の醸成を図る。
- オ 教育相談・カウンセリングを充実させ、不登校生徒を支える。
 - ・学級担任を中心に教育相談担当、養護教諭等による教育相談の充実や教育相談委員会の充実。
 - ・町スクールカウンセラー、県派遣スクールカウンセラーによるカウンセリングの充実。
- カ 清掃活動や学校行事など、諸活動を教師と生徒が共に取り組み、教師と生徒、生徒と生徒の繋がりを

大切にした、安心して過ごせる居心地のよい学級作りや学校作りを行う。

キ 生徒会と連携した係活動や学級活動を展開し、自覚と責任感、自治力にあふれる学級作りを行う。

- | | |
|--------------------|-------------|
| ① 確かな児童生徒理解 | ※取組 (ア・イ・ウ) |
| ② 支持的風土をつくる学級経営の充実 | ※取組 (ウ・エ・オ) |
| ③ 学びに向かう集団づくり | ※取組 (カ・キ) |

方策4 見通す【学校組織マネジメント】

ア 「与那原中授業スタンダードⅡ」において、目指す子供像を明記し、授業改善に取り組む。

イ 「与那原中学力向上推進計画」を「PPⅡ」に対応して作成する。

ウ 年に2回「学校評価アンケート」を実施し、その結果を学力向上推進計画に反映させる。

エ 学力向上推進計画と校内研修の内容をリンクさせ、校内研究体制の充実を図る。

- | | |
|--------------------------------------|-----------|
| ① 学校課題解決に向けた組織マネジメントの機能を高める。 | ※取組 (ア・イ) |
| ② 学校評価と関連付けたカリキュラム・マネジメント及び年間サイクルの確立 | ※取組 (ウ) |
| ③ 授業改善・学校改善に向けた校内研究体制の充実 | ※取組 (エ) |

方策5 つなぐ【学校連携・地域連携】

ア キャリア教育の視点を踏まえた授業を推進する（「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させる授業を展開することにより目的意識と学習意欲の向上を図り、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る）

イ 「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させるため、「地域教育資源」の活用を図り「地域教育資源」を活用した授業や行事に取り組む。

ウ 職場体験学習の取組の充実を図り、「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させる。

エ 学級通信や電話連絡等を活用し、学級と家庭との繋がりを密にした、開かれた学級作りを行う。

オ 地域行事「与那原大綱曳」への参加による地域への関心を高める活動に取り組む。

カ 『キャリア教育学習プログラム』を生かした指導を推進する。

キ 中学2年生で「立志の日」を設定し、地域人材を活用し「立志講演会」「立志式」を行う。

- | | |
|----------------------------|---------------|
| ① 市町村の特色を生かした施策推進による学校づくり。 | ※取組 (イ・オ・カ) |
| ② キャリア教育の視点を踏まえた校種感の間の連携強化 | ※取組 (ア・イ・オ・カ) |
| ③ 学校・地域・家庭の互恵的関係の構築 | ※取組 (ウ・エ・オ・カ) |

(2) 「与那原中授業スタンダード」による授業改善の取組

与那原中授業スタンダード II

1. めざす生徒像 ※授業のどの部分で繋がっているか意識してみましょう

- 夢や目標をもって自ら学び、確かな学力を身につけた生徒
- 自他を大切ににし、思いやりの心をもつ生徒
- 体力向上に努め、健康で安全な生活ができる生徒

2. 単元の目標 ※3つの資質・能力を意識しましょう

単元終了後に

「何ができるようになるか」「どんな力が身についているのか」「どんな姿になっているか」

3. 全教科・全領域に共通する授業構成について

		子どもの学びの姿 ※ここを大切にしましょう	学習の流れ
開始前		授業に臨む姿（整 YELL）	・1分前着席・机上の整理、学習用具の準備・黙想一挨拶
導入	個	ねらいをつかむ姿 <input type="checkbox"/> やってみたい <input type="checkbox"/> しらべてみたい <input type="checkbox"/> 解決したい	重点①「学習課題(めあて)」「ゴール」の設定 ★見通しを持たせる。 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに沿った課題設定 <input type="checkbox"/> 生徒から意図的に導き出す手立て 生徒が学ぶ必要を感じる(学びたい、知りたい)課題 「問い」(なぜ、どうして)が生まれる課題
	人	自分なりの考えをもつ姿 <input type="checkbox"/> 私ならこう考える <input type="checkbox"/> 私ならこう思う <input type="checkbox"/> 私ならこうする	関わり合って学ぶ場の設定と指導の工夫 <input type="checkbox"/> 課題を解決する方法を考える ・試行する ・実験する ・比較する ・検討する ・発表する ・書く活動 ・話し合う活動
展開	集	交流を通し自分の考えを広げ深める姿 <input type="checkbox"/> 説明したい <input type="checkbox"/> 質問したい <input type="checkbox"/> 整理したい	○教師の指導力 ・学習形態や座席配置の工夫 ・発問、指示、支援の工夫 (ゆさぶる、広げる、つなげる、まとめる) ・思考ツール等の活用 ・教師主導、生徒主体のバランス ・適切な評価 ・生徒指導三機能
	団		①子どもに自己決定の場を与える ②自己存在感を与える ③共感的人間関係を育成する。
最終	個	振り返り次へつなげる姿 <input type="checkbox"/> ~分かった(分らなかった) <input type="checkbox"/> ~できるようになった (できなかった) <input type="checkbox"/> ~な場面でやってみたい <input type="checkbox"/> ~な教科で使ってみよう <input type="checkbox"/> ~ならどうなるんだろう <input type="checkbox"/> もっと調べてみたい <input type="checkbox"/> もっと考えたい	学習のまとめ <input type="checkbox"/> 学習した内容の習得・定着 <input type="checkbox"/> 本時の学習の知識・理解等の確認
	人		重点②振り返りの充実 <input type="checkbox"/> 文字言語による振り返り <input type="checkbox"/> 自己の変容の認識→将来とのつながり ↓ さらなる学習意欲、新たな課題や問い、深い学びの実現

コンパクトでインパクトのある導入を!!

簡潔な説明
明確な指示

ラスト
10分の意識

*全教職員が同じ姿勢で生徒に対応することが、生徒の心の安定につながり、学力向上に繋がると考える。

(3) 「整YELL(ととのエール)」を合い言葉にした、学習規律の定着を図る取組

① ねらい

- ・学習や生活の基盤となる、基本的な生活習慣や学習規律を定着させる。
- ・学習規律を「整YELL」という合い言葉に置き換えることで、整える意識の向上を図る。

② 方針

- ・生徒全員を対象とする。
- ・全職員共通理解のもと、1年間をかけ取り組む。

③ 取組内容

月	職員の動き	生徒の動き	学級役員の取組
4	①職員会議で「整YELL」の確認 ②担任は学活を活用し「整YELL」の読み合わせ ③「整YELL」を掲示	①学活で「整YELL」の読み合わせ	①「第1回リーダー研修」にて、「整YELL」や号令や黙想の確認
6	①「整YELL」アンケート実施	①「整YELL」アンケート実施	
9	①「整YELL」アンケート結果共有・課題確認		①「整YELL」アンケート結果共有・課題確認
10			①「第4回リーダー研修」にて、「整YELL」アンケート結果や課題の確認後、号令や黙想の確認
12	①「整YELL」アンケート実施	①「整YELL」アンケート実施	
1	①「整YELL」アンケート結果共有・課題確認		①「整YELL」アンケート結果共有・課題確認

(4) 家庭学習の定着や内容の深化を目指し、自ら学習に取り組む生徒の育成を目指す取組

① 達成目標 家庭学習ノートの年間終了冊数を一人4冊以上とする

② 取組方法

ア 家庭学習ノートを学校で準備し、生徒全員に配布する。

イ 家庭学習の手引き(町学力向上推進協議会作成)・家庭学習の進め方(家庭学習ノートの表紙裏)を活用する。

※1年生は、上記資料を読み合わせた後、家庭学習に取り組む。

ウ 家庭学習ノートを提出させ、担任は点検・激励を行う。(※生徒会学習委員の常時活動として取り組ませてもよい)

エ 1冊全部終了した家庭学習ノートは、学校長に提出し、公印を押印してもらう。

※新しい家庭学習ノートは、生徒が職員室から受け取る。

オ 学推担当者は、1冊終了(者)ごとに終了冊数を記録する(学年別、学級別及び学校全体の終了冊数の集計をする)。

③ 学級担任・学年・教科担任の取組

ア 学級担任は、家庭学習ノートの点検を毎日行う。(※生徒会学習委員の常時活動として取り組ませてもよい)

イ 学級担任は、激励のコメントを記述する等、意欲づけができるような工夫・取組を行う。

ウ 教科担任は、授業と連動した宿題の与え方を工夫し、家庭学習の質の向上を図る。

④ 家庭学習強化月間の取組

ア 曜日ごとに決められた教科(5教科)に取り組み、家庭学習の定着と内容の深化に取り組む。

イ 中間テスト前は、教科担任から出された課題を家庭学習ノートに取り組む。

ウ 1月・2月は下記のことを実施する。(詳しい取組内容は、学推が企画し、職員会議を経て実施する)

- ・冬休みの課題を準備し、取り組ませる

- ・教科担任が準備した宿題プリントに取り組む。

- ・2学年で補習の予定を組み、学習の定着に遅れが見られる生徒の支援を行う。

エ 定期テスト前は、町学習支援員を活用した「放課後勉強会」を実施する。